大学の学習・生活環境と退学率の要因分析
―パネル・データを用いた検証―

浦川邦夫・姉川恭子

要旨

本稿では、高等教育機関の中でも重要な割合を占める「大学」に焦点をあて、大学の学習環境と中退率との関連性に注目した分析を行った。具体的には、読売新聞教育取材班による「「大学の実力」調査」の各年版データ、朝日新聞出版の『日本の大学ランキング』の各年版データから作成した大学パネルデータに基づき、大学での学習支援、生活支援のあり方など学びの環境の整備・拡充が、中途退学の抑制にどのような効果を与えうるかという点についての検証を試みた。

計量分析の推定結果によると、学生の学習意欲や大学の学習環境の質を示す「図書貸出数」や「教員学生比率」が、他の変数を制御しても退学率と負の相関を持っており、入学前時点の学力に加えて、大学が提供する学習環境のあり方も退学率の抑制に一定の影響を与えている可能性が示された。